子どもの身体に対する衣服の影響に関するアンケート調査

株式会社遊道 宮沢優紀　　琉球大学病院 神谷武志

【はじめに】

子どもは日々の暮らし（遊び・生活）から成長・発達の要素を獲得している。その中で自発的に動き、自主的に判断し、主体性を育んでいく。しかし、その活動の中で衣服による身体運動の制限を受けることで、無意識に活動の幅を減少させているのではないかと考えた。本研究ではズボンの種類から子どもの股関節可動域の変化や衣服を選ぶ際の保護者の意識調査を行った。この研究を通して保護者に子どもの衣服と成長に関する意識を高めてもらうことが狙いである。

【可動域の制限による身体活動への影響】

乳児期

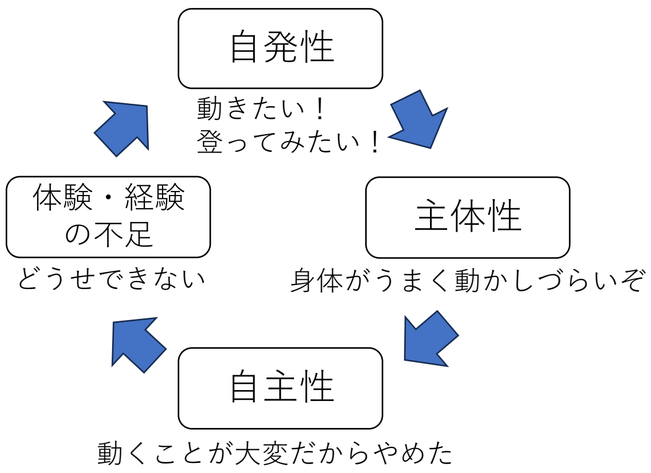
- 寝返り時、ハイハイ時、抱っこ時の股関節の動きを制限
- 歩行時、階段や斜面での登り降りなどでの膝の開きを制限

幼児期

- 走行時の膝の開きや着地姿勢の制限
- 座る際に膝が開きにくく、バランス・姿勢の保持が困難
- 様々な体勢における踏ん張りのききにくさ

【可動域の制限による精神活動への影響】

≪負の強化≫



- 自発的な動的活動の減少
- 身体が動かしづらいため生活の基本動作（立つ・しゃがむ・止まるなど）もイライラする
- 身体が動かしづらいため模倣ができにくい
- 踏ん張ることが難しいため、静止ができにくく集中が難しい

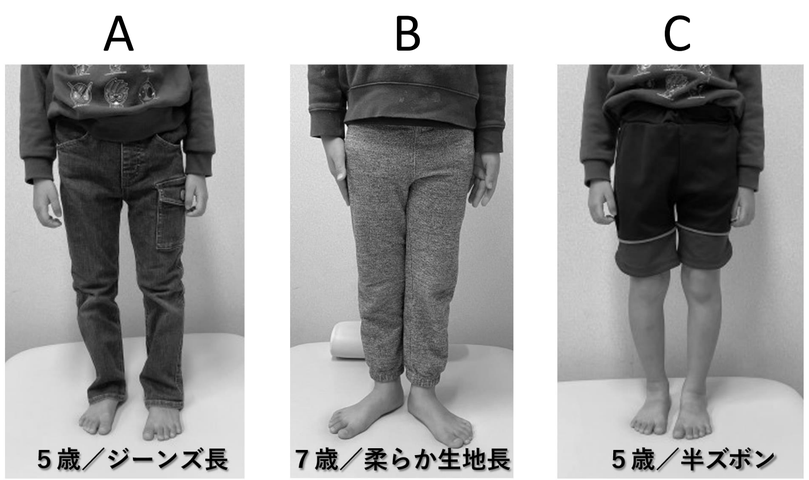
【可動域の制限による生活への影響】

- 運動量及び質の低下
- 食欲の過度な摂食・減食
- 睡眠の時間及び質の低下
- コミュニケーションの機会の減少
- ロコモティブ・メタボリックシンドロームの増加

【研究Ⅰ：３種類のズボンによる股関節外転可動域の調査】

≪対象と方法≫

対象　生来健康で保護者の同意が得られた男児２例（5歳・7歳）
種類　A　ジーンズ生地の長ズボン
　　B　柔らかい素材の長ズボン
　　C　半ズボン
方法　単純レントゲン撮影による臥位で股関節正面外転位撮影（性腺防御）し、大腿骨軸の開き角を計測。



ズボンの種類

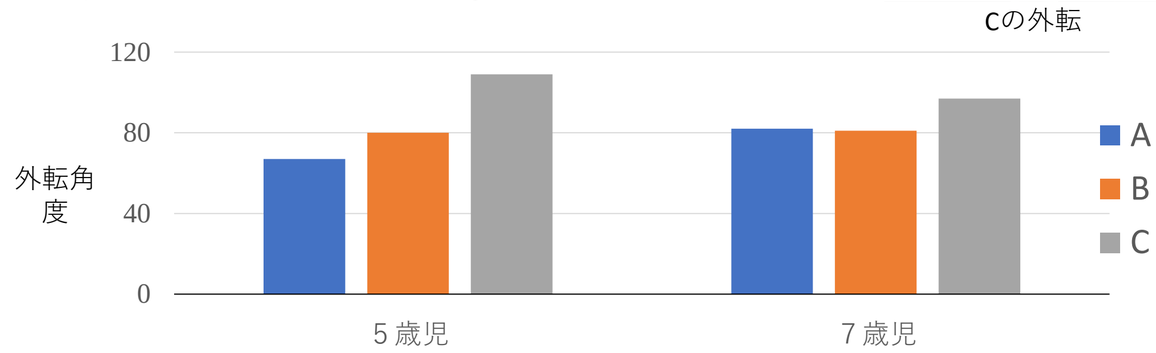
股関節外転

≪結果≫

Aの外転

Cの外転

外転角度はジーンズ長ズボン（A）と柔らかい長ズボン（B）で制限された。
5歳男児：ジーンズ長（A）は半ズボン（C）の61.5%
7歳男児：ジーンズ長（A）は半ズボン（C）の84.5%
柔らかい長ズボン（B）の生地によってはジーンズ（A）と変わらない可能性がある。半ズボン（C）は股関節外転を制限しなかった。



【研究Ⅱ：保護者へのアンケート調査】

≪対象と方法≫

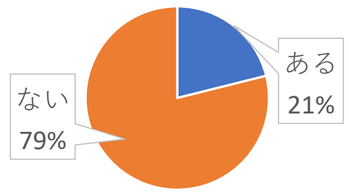
対象　北海道・沖縄県の0歳～11歳までの保護者20～40代
回答　610件（北海道77、沖縄県533）
調査期間　2023年1月18日～2月20日

≪結果≫

質問：衣服を選ぶ時に重要視していることを3つ答える

	動きやすさ	着心地	価格	デザイン	ほしがる物	洗濯のしやすさ	耐久性	ブランド
20代	59	41	63	43	12	1	5	1
30代	276	167	269	120	26	42	58	3
40代	112	109	105	60	12	34	22	3
合計	447	317	437	223	50	77	85	7

質問：
子どもの服選びに関する情報を教わったことはありますか？



	ある	ない
20代	16	63
30代	66	303
40代	29	49
合計	111	415

質問：（あると答えた方へ）どこで情報を知りましたか？複数回答可

	ネット	テレビ	書　籍	保育施設	（子）支援	乳児検診	妊婦健診	親	親　戚	友　人	職業上	療　育
20代	8	2	1	3	1	3	0	1	0	0	0	0
30代	10	6	16	16	1	2	0	4	5	8	1	0
40代	4	8	6	15	1	0	0	4	0	3	3	1
合計	22	16	23	34	3	5	0	9	5	11	4	1

【考察】

股関節外転角はジーンズ生地長ズボンで明らかに制限されることが分かった。さらに柔らかい生地の長ズボンが必ずしも外転しやすいズボンとは言えないことが分かった。今後は子どもが動きやすいズボンの条件を具体的に調査する必要がある。

また、アンケート調査から約8割の保護者が、子どもの成長と衣服の関係性について情報を得る環境がないことが分かった。しかし服選びのポイントでの上位が「動きやすさ」と「素材や着心地がよいもの」と子ども優先で選んでいることが分かった。また、保護者の実感として「子どもは自分で動きやすいズボンを選ぶ」「動きにくい服を着ると機嫌が悪くなる」など、衣服によって子どもの気持ちの違いを感じる意見が多く見られた。このように子どもの衣服と成長に関心がないのではなく、情報を得る機会を作ることで、より子どもの成長につなげられる環境を整えることができると感じた。

【最後に】

保育施設では保育者の経験から、動きやすい服装の提唱を行っている部分が多いため、今後は根拠に基づきながら保護者に衣服環境を整えることの大切さを伝えていきたい。毎日身につける物だからこそ、子どもたちが最大限に活動して様々な体験を積み重ね、挑戦する心を育む活動に取り組んでいきたい。

【参考文献】

猪又美栄子：衣服の動作適応性に関する研究　日本家政学会誌Vol.66　2015年
大塚美智子：衣服内環境を整える効果的な子どもの服の着装　チャイルドヘルス　2014年1月号
中村邦子　：子どもの服の選び方　チャイルドヘルス　2014年1月号
丸山美和子：発達の道筋と保育の課題　2008年
吉川貴仁　他：脳神経・内分泌学からみた運動と食欲の関係　健康運動化学　2011年
江村実紀　他：小学生における睡眠習慣の違いがメンタルヘルスと体力に及ぼす影響について　北海道大学大学院教育学研究紀要126号　2016年6月
厚生労働省：保育所保育指針　2017年